

第43回 縮小社会研究会



時：2018年11月23日、13:00～17:35

所：所：同志社大学 烏丸キャンパス 志高館 SK110 烏丸今出川交差点より北に500m、

地図：http://global-studies.doshisha.ac.jp/access_map/access_map.html

トランプ大統領の出現、イギリスのEU離脱など世界はめまぐるしく動いています。また、経済成長は止まり、国の借金はどんどん増えています。この情勢を大局的に捉え、今後の展望を開かねばなりません。そこで、今回は「政治・経済の現状と縮小社会」を基軸とした講演にしました。また、食料も世界的大企業の独占化が進んでいます。種子についての、映画も上映します。

12:30-13:45 DVD 上映 『種子—みんなのもの？ それとも企業の所有物？』、『日本の種子はどうなる？—種子法廃止、遺伝子組み換え (GMO)、貿易協定から考えよう』(アジア太平洋資料センター(PARC))

14:00-15:00 **テクノロジーとエネルギーの未来が示す縮小時代の国際社会：暮らしと世界のデザイン**

山本達也 (清泉女子大学教授) 世界は、「縮小時代」へと向かいつつある。近代以降、我々は「拡大局面」を前提として国際システムも社会システムも構築してきた。こうした前提が「逆回転」をはじめると、国際社会はどのようなになってしまうのか。また、それは、我々の日々の生活とどのような関係があるのか。マクロとミクロの視点から、縮小社会のこれからを展望する。

15:00-15:30 **日本の財政は大丈夫なのか？ 中西 香** (縮小社会研究会理事)

政府は「日本は世界一お金持ちだから財政は大丈夫」との姿勢ですが、あんなにたくさんの借金をして、本当に大丈夫なのでしょうか？順々に検討していきます。

15:30-16:00 **日本の政府債務 1200兆円超何が起こるのか？ 尾崎雄三** (縮小社会研究会理事)

国の負債1200兆円超。個人から見れば途方もない額ですが、まだ増え続けています。返せる額ではないとも言われていますが、このままいくと何が起こるのでしょうか？

16:10-16:40 **トランプ以降の行き詰まる世界 中西 香** (縮小社会研究会理事)

一昨年以来トランプ大統領の一挙手一投足は世界中に影響を与えています。本講ではそれが世界にどういう意味をもたらしているのかを子細に考察したいと思います。

16:40-17:10 **現代の負債とは何か 境 毅** (生活クラブ京都エル・コープ職員)

『債務、さもなくば悪魔』でターナーが「危険な負債」と呼ぶのは、サブプライムローンだけでなく、不動産への投資や国債も含まれています。今世紀に入って急増しているこの種の負債について考察します。

17:10-17:40 **家族の復権 多様な形態の家族 青野豊一**

現代は、家族という形態が大きく変容して来ている過渡期である。過渡期には、さまざまなタイプの家族が共存しているが、どれが良いとも言えない。また、日本社会では、まだ多くの世帯が「機能不全家族」となったわけでもない。しかし、情報化により多様なメディアが存在するにも関わらず、だからこそ、人々の間のコミュニケーションの希薄化は進行している。このまま晩婚化、少子化が、そして未婚化が進行すれば、従来の社会的諸関係、そして諸制度は見事に崩壊していくであろう。

懇親会：18:00-19:30 場所：芙蓉園 (烏丸今出川)、 費用：2,000円+飲み物代

参加登録：下記の自動登録よりお願いします。 **研究会参加費**：会員は無料、非会員は500円

http://confreg.ate-mahoroba.jp/confreg?conf_idstr=Lg3ykgCu14OKAfJk2AJ71gom1022

一般社団法人 縮小社会研究会 e-mail: jimukyoku@shukusho.org HP: <http://shukusho.org/>